

つながれ、いのちに。  
つながれ、希望に。  
つながれ、幸せに。  
つながれ、未来に。  
つながれ、わたしの意思。



皆様の参加が移植医療の未来を創る!

道内  
高校書道部が  
大会スローガンを  
書き下ろし!

看護学生を交え  
移植医療に  
ついての  
トークセッションも

▼ 全国どこからでも視聴可能です! ▼

第23回

# 臓器移植推進国民大会

2022.10.29 Sat [13:30~16:10]

主催 / 厚生労働省、北海道、(公社)日本臓器移植ネットワーク、  
(公財)日本腎臓財団、(公財)北海道移植医療推進財団

後援 / (公社)日本医師会、(公社)日本透析医会、文部科学省、日本放送協会、(一社)日本民間放送連盟、(一社)日本新聞協会、(公社)ACジャパン、(公財)健康・体づくり事業財団、(公社)日本看護協会、(一社)全国腎臓病協議会、(一社)日本腎臓学会、(一社)日本透析医学会、(一社)日本移植学会、(公財)日本アイバンク協会、NPO法人日本移植者協議会、北海道教育委員会、(一社)北海道医師会、(一社)北海道歯科医師会、(一社)北海道薬剤師会、(公社)北海道看護協会、北海道赤十字血液センター、北海道大学病院、札幌医科大学附属病院、旭川医科大学病院、北海道医療大学、北海道科学大学、(株)北洋銀行、(株)北海道銀行、北海道新聞社、朝日新聞北海道支社、読売新聞北海道支社、毎日新聞北海道支社、(株)北海道医療新聞社、(一社)共同通信社札幌支社、HBC北海道放送、STV札幌テレビ放送、HTB北海道テレビ、TVhテレビ北海道、UHB北海道文化放送、AIR-G' FM北海道、FMノースウェーブ

多くの方が本大会を視聴することで  
移植医療の社会への理解につながります。



WEB配信は  
こちらから

視聴  
無料

大会の詳細はこちらの二次元バーコードでご覧になれます。

※一般の方は入場できませんので、WEBでご視聴ください。  
※エントリー不要、当日のみの配信となります。

臓器提供の意思表示に  
ご協力ください。

臓器提供に関する意思是、健康保険証・運転免許証・マイナンバーカードの意思表示欄、臓器提供意思表示カードに記入・携帯するか、インターネットで登録しましょう。

JOT  公益社団法人 日本臓器移植ネットワーク  
いのち、つながる。

臓器移植に関するお問い合わせ先 0120-78-1069 [www.jotnw.or.jp](http://www.jotnw.or.jp)

臓器移植 検索



プログラム

|                              |   |
|------------------------------|---|
| <p>13:30<br/>↓<br/>14:05</p> | <p><b>開会・主催者挨拶</b><br/>厚生労働大臣感謝状贈呈式</p> <p>厚生労働省、北海道、(公社)日本臓器移植ネットワーク、<br/>(公財)日本腎臓財団、(公財)北海道移植医療推進財団</p>   |
| <p>14:05</p>                 | <p><b>休憩</b></p>  |
| <p>14:20<br/>↓<br/>15:10</p> | <p><b>基調講演</b><br/>命の贈りもの —移植法案は改正されたが—</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>演者</b> 聖マリア病院研究所 所長<br/>聖マリア学院大学大学院 教授<br/><b>藤堂 省先生</b></p> <p>九州大学医学部を卒業後、同第一外科入局。ピッツバーグ大学外科教授、北海道大学医学部第一外科教授を勤めた後、現在に至る。現北海道大学名誉教授。令和4年に、2022 Thomas E. Starzl Prize in Surgery &amp; Immunologyを受賞。専門は肝臓外科、肝臓移植、移植外科、消化器外科、小腸移植。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p><b>座長</b> 北海道大学病院<br/>臓器移植医療部<br/><b>嶋村 剛先生</b></p> </div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <p><b>救急領域における選択肢としての臓器提供</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>演者</b> 北海道大学病院<br/>救急科 科長(准教授)<br/><b>早川 峰司先生</b></p> <p>北海道大学医学部を卒業。市立札幌病院 救命救急センターに勤めた後、北海道大学病院 救急科へ。妻と子供7人の9人家族。</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;">  </div> </div> </div>  |
| <p>15:10</p>                 | <p><b>休憩</b></p>  |
| <p>15:20<br/>↓<br/>16:10</p> | <p><b>トークセッション</b></p> <p><b>テーマ</b><br/>みんなで考える、<br/><b>臓器提供・移植医療</b></p> <p>あなたの参加が移植医療の未来を創る。臓器移植を受けた方の思い、臓器提供を決断されたご家族の思いなど、臓器移植にはいろいろな思いや考えがあります。自分や家族の事を考えるきっかけとして、ぜひご視聴ください。</p> <p><b>トークセッション出演予定者</b></p> <p><b>司会</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 30%;"> <p>皆さんの疑問を教えてください。</p>  <p>北海道大学病院 臓器移植医療部 部長・診療教授<br/><b>嶋村 剛先生</b></p> <p>北海道大学医学部を卒業。現在、生体肝移植のほか、北海道で唯一の脳死肝移植、脳死膵移植、脳死小腸移植の認定施設実施責任者として診療に従事。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>移植医療について話し合しましょう!</p>  <p>はらだ腎泌尿器クリニック 院長<br/><b>原田 浩先生</b></p> <p>北海道大学医学部を卒業。市立札幌病院で腎移植を担当。理事を勤めたあと、現在の腎移植フォローアップクリニックを開設し現在に至る。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>私の仕事を紹介します。</p>  <p>北海道臓器移植コーディネーター<br/><b>高橋 美香先生</b></p> <p>公益財団法人 北海道移植医療推進財団に所属。北海道臓器移植コーディネーター兼組織移植コーディネーター。</p> </div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <p><b>参加者</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>学校でみんなと話し合いました。</p>  <p>札幌医科大学保健医療学部 看護学科<br/><b>伊藤 さやか氏</b><br/><b>矢部 珠羽氏</b></p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>大会のために作品を作りました!</p>  <p>市立札幌開成 中等教育学校<br/><b>書道部の皆さま</b></p> </div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <p>家族の思いを伝えます。</p>  <p><b>臓器提供をされた方のご家族</b></p> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <p>元気になって、日常が変わりました!</p>  <p><b>臓器移植を受けた方</b></p> </div> </div> |
| <p>16:10</p>                 | <p><b>閉会</b></p>  |

視聴方法

当日は無料WEB配信いたしますので、右記を検索し、ご視聴ください。



PCから視聴する場合

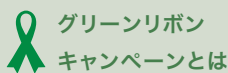
臓器移植推進国民大会



スマホ・タブレットから視聴する場合



※一般の方は入場できませんので、WEBでご視聴ください。



グリーンリボンは、世界的な移植医療のシンボルです。グリーンは成長と新しいいのちを意味し、“Gift of life”(いのちの贈りもの)によって結ばれた臓器提供者(ドナー)と移植が必要な患者さん(レシピエント)のいのちのつながりを表現しています。(公社)日本臓器移植ネットワークをはじめとする関連団体では、より多くの人に移植医療について理解してもらうため、毎年10月の臓器移植普及推進月間を中心に、グリーンリボンキャンペーンを展開しています。臓器を提供してもいいという人と移植を受けたい人が結ばれ、よりたくさんのいのちが救われる社会を目指しています。